あなたの会社の
チカラになりたい
会社です！
中古トラック・部品
販売・買取
板金・塗装・架装
TEL.0120-961-240
㈱大隅自動車商会 検索

No. 1724 ２０２０年（令和２年）１２月７日号

物流Weekly ウィークリー

毎週月曜日発行 購読料３か月 12,500 円（送料・税込み）
昭和62年11月14日第三種郵便物認可 ©物流産業新聞社 2020

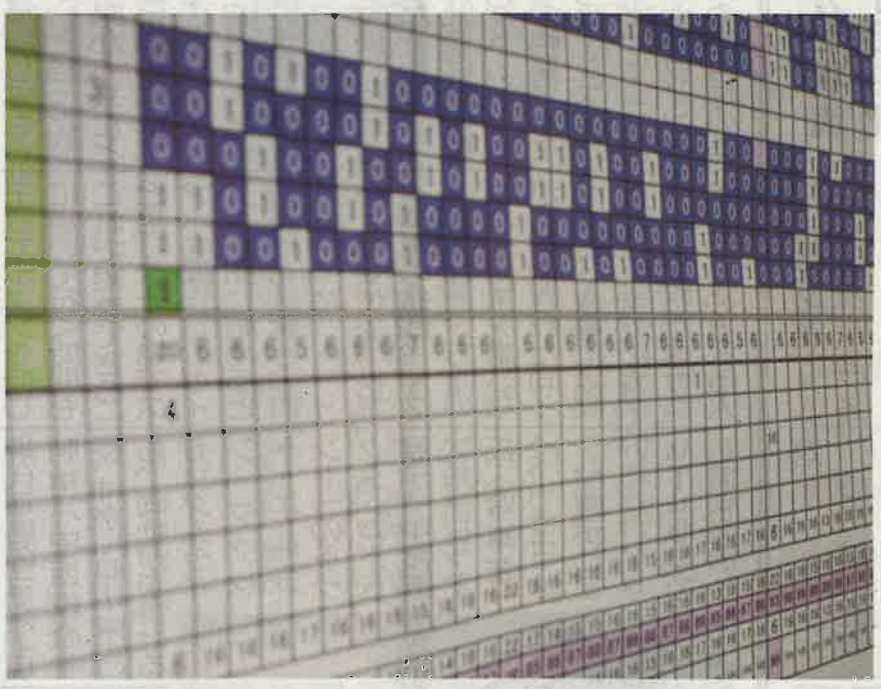
編集部 TEL 03-6304-0790
東京本社 TEL 03-6278-8292
大阪本社 TEL 06-6608-0501
全国１３拠点をネットワーク

発行人 山田
編集人 高田
https://weekly-
定期購読のお申し込み・お
FreeDial 0120-76
FAX 24時間承ります 0120-7

「２勤５休」３割稼働会

ツーマン運行

「２勤５休」体制で月間の勤務数に「６」、休業数に「１６」が目立つ勤務日数表



運行した日数
にまで落ち込ん
対し、近畿地方
業実施機関）が
先月に実施し、
務員が乗り込む
びになっている
た。新型コロナ
トラック運送業
送で特に顕著で
Ｔ」によると輸
も約５年前の水
需要への供給と
時期のトラック
りに厳しすぎる
聞こえる。

同月の土日を除く営業日数22日に占める、各乗務員の勤務日数の割合はおおむね3割前後。逆に休業日数欄には「16・16・16・17…」と、稼働日数より大きな数字が並ぶ。約50台のトラックを運行する同社で、各営業日の運行はもっとも多い日で23台、少ない日には10台しか稼動していない。

同社はコロナ禍後、輸送需要の急激な落ち込みを理由に雇用調整助成金を申請。最近は、スポット便以外の得意顧客の輸送需要を満たすためワークシェアの形で「2勤5休」体制で回してきた、という。

指導資料によると、長距離運行1日目の拘束時間と2日目の拘束時間の間には、法令で求められる8時間以上の休息期間がしっかりと設けられている。

しかし、「2日目の始業時刻が、1日目の始業時刻より早まっている」などの理由で、1日の運行を24時間単位で画一的に区切る「改善基準告示」に照らすと、1日目の拘束時間が16時間を超えているとみなされてしまっている部分が見られる。

8時間以上の休息期間が設けられていること、「2勤5休」により休養状態に全く問題がないことなら

らいだからツーマンも可能は可能だが、コロナ後に低迷する運賃では赤字もいいところ」。持続可能性に乏しい「解決策」に終始しているばかりか、経営が悪化するトラック運送事業者の首をさらに絞めかねない前例になる怖れすらある。

改善基準を告示している厚生労働省は3月17日、「新型コロナウイルス感染症の発生及び感染拡大による影響を踏まえた中小企業等への対応」として、事務次官から都道府県労働局長宛の通達を出している。このなかでは、「労働基準関係法令に係る違反が認められた場合におい

指導・

の用意はある」（大
平時にできていなか
考えられる必然性は
ＷｅｂＫＩＴによ
登録件数の比率は、
以上の落ち込みほど
でも約半分（46・
いる。
運賃指数も5年ほ
る。
景気のみならずあ
年の瀬。指導・支援
済実態、世間があっ
ディーセンシー（ま
ないのではないか。

ても、（中略）使用
者に対し自主的な改
善を促していく」と
いう、労働施策基本
方針（18年12月28日
閣議決定）の趣旨を、
コロナ禍での中小企

躍進する女性陣 第661回

船井総研ロジ
呂天嬌さん

「何事にも積極的に挑戦したい」

船井総研ロジ（東京都千代田区）で荷主向けのコンサルティングを担当する呂天嬌さんは、中国出身で日・中・英の3か国語を操るトリリンガル。国際物流を手掛ける顧問先の企業に対し、諸外国と日本との文化の違いを踏まえた彼女ならではの視点でサポートしている。

「中国の大学で日本語を専攻し、3年生から日本の大学に編入した」という呂さん。同社へ入社後は、外国人採用や教育、コンサル業務を担当。「新入社員の頃は、自分の日本語が伝わるか、ビジネスマナーが通じるか不安でいっぱいだった」と、それを感じさせない流暢な日本語で振り返る。

「運送会社さんのドライバー採用支援を担当した時は、求人データの入力など難しいことも多かったが、先輩に教えてもらいながら挑戦した。結果、たくさんの応募をいただき、やりがいを感じた」と話す。「最後の報告書を渡す時は、達成感でいっぱいだった」。

昨年9月からは、荷主向けコンサルティング部に異動し、無人倉庫の構築支援や、今年11月からスタートした「DXロジ研究会」も担当。業界初となるサブスク型の荷主向けコンサルサービスだが、「よりスムーズな運営ができるよう、頑張っていきたい」と意気込む。

同社の赤峰誠司常務は、「当社初の外国人スタッフということで、教育や指導にあたって不安がなかったと言えば嘘になるが、彼女は非常に頑張り屋さんで、業務に真摯に取り組む姿勢から、周囲の不安は完全に払拭された」と太鼓判を押す。「成長のスピードも速く、今では2期目の外国人スタッフが彼女を目標にしている」と、社内に良い影響を与えているという。

そんな呂さんの休日の過ごし方は、温泉巡りとテコンドー。後者は中学時代の部活から続けており、腕前は黒帯を取得しているほど。「趣味とフィットネスを兼ねて定期的に通っている。良いストレス発散にもなる」とお茶目な笑顔を見せる。

「入社2年目で、まだまだできないことがたくさんある。もっと勉強して、より多くの成果を出していきたい」と謙遜する呂さん。「今年は、初めて中国へのオンラインコンサルティングも敢行し、良い結果を残せた。実際に現地に行けなくても、できることはあることがよく分かった。何事にも積極的に挑戦していきたい」と語る。

（高橋頌子）